

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	大学院国際プロジェクト（情報通信）		
英文授業科目名	Graduate course international project (information and communication)		
開講年度	2009年度	開講年次	
開講学期	通年	開講コース・課程	博士前期課程
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-電気通信学研究科-専門科目		
開講学科・専攻	情報通信工学専攻 情報工学専攻 電子工学専攻 量子・物質工学専攻 人間コミュニケーション学専攻		
担当教官名	中嶋 信生		
居室	西6-609		

公開E-Mail	授業関連Webページ
n.nakajima@hc.uec.ac.jp	なし

【主題および達成目標】

近年の国際化の進展と共に理工系学生の実践的な語学力、コミュニケーション能力の向上が不可欠な物となっている。本ICT国際プロジェクト教育科目は、電通大・北京郵電大・韓国情報通信大学の3大学が連携してプロジェクトベースラーニング（PBL）を実施し、与えられた課題を協力して解いて行く過程で、参加学生が国際性と実践力を身につけることを目的としている。

【前もって履修しておくべき科目】

特にはないが、個人の総合力を高める上でどの科目も重要である。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

課題を解くためには、情報通信関連の知識と技術が要求されるため、情報通信に係わる科目を履修しておくことが望ましい。また、中国、韓国の学生と対話するために、英語力が求められる。

【教科書等】

各プロジェクトで提示される。

【授業内容とその進め方】

導入、グループ化（日中韓混成チーム）と課題提示、グループによる課題追求、結果の発表・講評からなる。PBLのスタートと終了時と計2回全員が集まる。従って少なくとも1回は中国か韓国の大学に行くことになる。

今年度のテーマは、無線ネットワークとDSP(エコーキャンセラ)の2つ。詳しくはガイダンスで説明する。ガイダンスの日時、場所は別途掲示する。

(1) 全授業共通国際性涵養に関する授業(1日)

- ・ガイダンス
- ・国際コミュニケーションスキル
- ・外国文化と日本文化の違い
- ・外国生活体験談をもとにした討論

(2) PBL 遂行における事前知識習得のための授業：プロジェクト毎(1日)

- ・基礎知識の習得
- ・使用実習装置の説明
- ・プログラミング手法

(3) ICTトライアングルフォーラムにおけるグループ分け、課題発表、実習授業(3日) 全員集合

- ・学生のグループ分け
- ・プロジェクト課題の発表
- ・学生同士のコミュニケーションによる役割分担

(4) グループによるインターネットを活用した遠隔実習(30時間)

- ・図に示す遠隔実習システムを使った遠隔実習
- ・プロジェクト課題達成のためにプログラムの共同作成、アイデアの確認
- ・インターネットを通じたディスカッション

(5) プロジェクトの仕上げ、成果発表会(3日) 全員集合

- ・グループにおけるプロジェクト課題の仕上げ
- ・成果発表会
- ・審査・表彰

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

プロジェクト遂行時の活動、貢献度、成果の審査結果により評価する。
最終審査で合格するだけの研究成果が求められる。

【オフィスアワー：授業相談】

木曜日AM。事前にメール等でアポイントをとっておくことが望ましい。

電気通信大学 平成21年度シラバス

【学生へのメッセージ】

外国の同世代の学生と触れ合うことは、いろいろな意味で大きな刺激となり、本学の標榜する実践教育の最たるものの1つと言える。

本年度が初年度なので、教員と学生で意義あるカリキュラムに仕上げていきたい。

PBLは、AWCC（先端ワイヤレスコミュニケーション研究センター）教員および、国際交流推進センターの客員教授が中心となって担う。

【その他】

1 大学10人程度の枠なので、希望者多数の場合は、審査を行うことがある。

PBLの使用実習装置及び所要機材は貸与する